

## 視察報告書

松阪市議会議長 濱口高志 様

下記の内容で研修いたしましたので、報告いたします。

日時:	令和 8 年 5 月 18～19 日(月・火曜日)
視察先:	東広島市
テーマ:	大学連携 ～Town&Gown 構想～
ご対応者:	(東広島市)経営戦略担当部長 来栖真一様
内容:	<p>東広島市(人口約20万人)には、4つの大学がある。この地域資源を生かすため、アメリカ・アリゾナ州で駆動するアカデミック・エンタープライズという新しい運営理論に則り、「サステナブル・ユニバーサル・タウン構想」*を東広島市は提案。</p> <p>(*アカデミック・エンタープライズ理論とは、公的資金以外の収入基盤を多様化し、地域社会の課題解決に目を向けながら先端的な学術・研究の実施を展開していくもの。)</p> <p>これが後に「Town&amp;Gown 構想」の元となった。</p> <p>地域の自治体と大学が、包括的・日常的・継続的・組織的な関係を構築の上、自治体の行政資源と大学の教育・研究資源を融合させながら活用することで、地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成のための共創の場を通じて地方創生を実現する構想。</p> <p>さらに、「Town&amp;Gown 構想」を具体的に進めていくために、広島大学とは次世代学園都市構想を策定し、市と大学の共存共栄のための具体的な取り組み内容やビジョンを共有。</p> <p>一方で、半導体産業の国が支援する国内 4 カ所の大規模産業拠点整備プロジェクトのひとつに選定され、大規模な半導体工場が誘致されることも決定。(他の3つは、北海道のラピダス、岩手のキオクシア、熊本の TSMC)</p> <p>この状況下で、広島大学と人材育成の仕組みづくりとして、日米半導体連携を締結。日米で 11 大学が参画。また、32 社で構成される「せとうち半導体コンソーシアム」が発足。</p>
所感:	<p>今回、訪れた東広島市のように4つの大学という地域資源を生かしたこれからのまちづくり構想やビジョンを松阪市でも行うことは現実的な話ではないが、大学とどう連携して、なにをまちに生み出せているかという視点と、大学連携の下支えとなる制度については、学びだけでなく、市への提言事項として持ち帰れた。以前から大学との連携を推進する市のセクションはあったが、Town&amp;Gown 構想を進めるなかで、先進地となるアメリカへの視察なども経て、以前にはない大学連携が具体的に進み、それが取り組みや成果へと変わりつつある。市の課題を大学といかに共有し、大学又は教授単位との win-win な関係性をいかにつくれるかということが大事な視点であると教えられた。それらを円滑にするためにも、大学内に Town &amp; Gown オフィスを学内において、そこに市の職員が出向し、ハブ機能として市と大学とのマッチングが円滑に行われるという。</p> <p>当市にも三重大大学のサテライトオフィスができたが、その動きはそれほど鮮明ではない。それは民間の動きだから・なかもしれないが、どんな市の課題を、どの教授と同じ方向を向い</p>

て取り組むかは、松阪市でも取り組めることだと思えた。だからこそ、その取組みを補完する仕組みや、それをどんな方向に生かせるか大きな枠組みも必要となるかもしれない。松阪市内に大学そのものを持ってこれなくても、ソフトでつながれるという自分の考えに自信を持てた。



広島大学内

視察風景：



福祉分野の連携について

以上  
至誠会 深田龍